

屋久島山岳部を中心とした歴史年表

年(西暦)	(和暦)	山岳部の歴史	屋久島の歴史	日本と世界の動き	大きな変化	調査等	屋久島町人口	入り込み数
1868	M1			明治維新			6,682	
1869	M2	版籍奉還とともに島の8割強が明治政府官林となる		薩長土肥の4藩主、版籍奉還(所領・人民を天皇に)				
1870	M3							
1871	M4		鹿児島県令が大阪の承認に屋久杉伐採を許可	廃藩置県				
1872	M5							
1873	M6			地租改正、山林原野等官民区分処分法 地租改正条例公布				
1874	M7							
1875	M8							
1876	M9							
1877	M10							
1878	M11							
1879	M12		屋久島の地租改正に着手(～明治14年) 山林の官民有地区分が始まる	琉球処分(沖縄県)				
1880	M13							
1881	M14	官民有区分、官林が農商務省主管となる						
				地租改正が完了				
1882	M15		屋久島総面積の90%以上が国有林化					
1883	M16	永田民官林境界交渉?						
1884	M17							
1885	M18		官民有地区分(官有地95.2%)により国有林になる					
1886	M19	鹿児島大林区署の管轄となる						
1887	M20							
1888	M21							
1889	M22		官民有林協会踏査が実施 上屋久村、下屋久村の二村となる	町村制施行				
1890	M23							
1891	M24							
1892	M25							
1893	M26							
1894	M27			日清戦争、台湾統治				
1895	M28			日清戦争終戦				
1896	M29							
1897	M30		屋久島燈台完成、点灯					
1898	M31							
1899	M32			国有土地森林原野下戻法公布				
1900	M33	「国有林土地森林原野下戻法」による下戻を申請						
1901	M34							
1902	M35							
1903	M36	「国有林土地森林原野下戻法」による下戻不許可						
1904	M37	国有山林下戻請求 提訴		日露戦争				
1905	M38			日露戦争終戦				
1906	M39							
1907	M40							
1908	M41							
1909	M42							
1910	M43			イタイイタイ病(富山県神通川流域、1910代～1970代)				
1911	M44							
1912	M45							
1912	T1							
1913	T2							
1914	T3	ウィルソン博士が来島調査(屋久杉巨木林が世界に知られる)		第一次世界大戦勃発 山林局長通達「保護林設定ニ關スル件」				
1915	T4							
1916	T5	立木払下げを中止。倒木と切株のみを採取						
1917	T6							
1918	T7			第一次世界大戦終戦				
1919	T8							
1920	T9	国有山林下戻請求の却下(屋久島村の敗訴) 田代善太郎博士 天然記念物調査						
1921	T10	屋久島国有林経営の大綱(屋久島憲法)の制定。本格的に国有林事業始まる (島民の便宜を図る、地域雇用など地域対策が盛り込まれる) 委託林(後の供用林)設定(前岳部分)						
1922	T11	屋久島国有林の一部が学術参考保護林となる 安房森林軌道着工	下屋久沿岸林道起工					
1923	T12	安房官行さく伐所(小杉谷製品事業所)が開かれる 屋久杉搬出のため安房森林軌道(安房～小杉谷16km)敷かれる 最初の「屋久島国有林施設計画」策定 屋久杉(高齢樹)の生木禁伐の特記あり 学術参考保護林を指定		関東大震災(14万人)				
1924	T13	学術保護林が国の天然記念物指定(屋久杉原始林) 小杉谷事業所開設 森林軌道が石塚上部まで増設、石塚集落ができる	上屋久沿岸林道起工 屋久島水力電気設立					
1925	T14			台湾よりボンカン導入				
1926	T15			嶽野川発電所を開始				
1926	S1							
1927	S2			道路4mの拡幅工事				
1928	S3	宮之浦事業所設置						
1929	S4							

カツオ、サバ、トビウオ漁盛ん

屋久島山岳部を中心とした歴史年表

年(西暦)	(和暦)	山岳部の歴史	屋久島の歴史	日本と世界の動き	大きな変化	調査等	屋久島町人口	入り込み数
1930	S5		下屋久沿岸林道 栗生まで到達 宮之浦橋完成				17,462	
1931	S6			国立公園法制定	カツオ、サバ、トビウオ漁盛ん			
1932	S7		上屋久沿岸林道 永田まで到達		↓			
1933	S8		安房に製板工場ができる					
1934	S9	栗生軌道(5.5km)が開設						
1935	S10						17,900	
1936	S11							
1937	S12	軍用木材の臨時伐採始まる 屋久島国有林生産増強企図、宮之浦森林軌道建設 仲の上に事業所開設	屋久島測候所設置	日中戦争勃発				
1938	S13			国家総動員法				
1939	S14			第二次世界大戦勃発				
1940	S15						17,444	
1941	S16			太平洋戦争勃発				
1942	S17		屋久島自動車有限会社が設立(ハイヤー1台、バス4台)					
1943	S18							
1944	S19			「国有林材増産に関する件」で農林大臣、各営林署長に 通達(戦時特殊例を発し、造伐体制強化)				
1945	S20		屋久島空襲被災(栗生、原、安房、宮之浦、一湊)	第二次世界大戦終戦			19,316	
1946	S21							
1947	S22		中型バスの導入運航	林政統一、国有林野事業の特別会計化				
1948	S23							
1949	S24		屋久島電源開発調査	林野庁設置				
1950	S25			朝鮮戦争勃発 文化財保護法制定(史跡名勝天然記念物保存法等を統合)			22,236	
1951	S26							
1952	S27	屋久島が国立公園候補地に決定 小杉谷に電気が灯る	屋久島電気興業(株)創立	電源開発促進法公布				
1953	S28	屋久杉の根株の伐採始まる 「安房官行さく伐所」から「小杉谷製品事業所」と改められる	屋久島千尋滝発電所完成	朝鮮戦争休戦、離島振興法制定、奄美群島日本復帰				
1954	S29	屋久杉原始林が特別天然記念物に指定	屋久島総合開発始まる(3本柱①電源、②道路、③屋久杉)	高度経済成長(～1973)				
1955	S30	小杉谷製品事業所にジーゼル機関車を導入	アメリカ軍哨戒機が宮之浦岳山腹に墜落	自衛隊発足			23,614	
1956	S31	小杉谷製品事業所にチェーンソー導入	日本学術会議は屋久島の自然保護を国に勧告					
1957	S32	屋久杉(高齢樹)の生木禁伐の特記がなくなり、大面積皆伐始まる	上屋久村、下屋久村合併協議・決裂	水俣病(熊本県水俣湾)				
				自然公園法制定				
1958	S33	屋久島国有林施業計画変更(生産増加、屋久杉禁伐措置の解除、屋久杉伐採進む)	上屋久町制施行	林野庁「国有林生産力増強計画」策定 (高齢過熟林等人工林化、未利用林開発等)	伐採の機械化が進み、屋久杉伐採量が急増			
1959	S34		下屋久村が町制を施行して屋久町となる					
1960	S35	小杉谷、石塚地区の人口540人を記録	屋久島電気興業が屋久島化学を合併屋久島電工(株)に	国民所得増進計画策定 四日市ぜんそく(三重県四日市市、1960、1972)			24,010	
			宮之浦港起工	「国民所得増進計画」を策定				
1961	S36	「屋久島林業開発計画」が出される、生産量(伐採)が拡大	安房川第一発電所1期操業開始 第20折田丸、屋久島丸就航 鹿児島種子島屋久島航路毎日運航 屋久島林業開発公社設立	国有林木材増産計画 株式大暴落				
			大型ガソリンバスの導入運航					
1962	S37	屋久島国有林施業計画変更(広葉樹の増産) 自然保護団体「屋久島の自然を守る会」設立	(社)屋久島林業開発公社発足	景気回復化進む				
		鹿ノ沢小屋整備	屋久島地区、低開発地域工業開発地区に指定					
1963	S38	小杉谷小・中学校の児童生徒数147名	屋久島森林開発(株)設立 安房第1発電所第2期工事完成、発電 屋久島空港開港	低金利政策始まる	林業技術の近代化、国有林の伐採ピーク			
1964	S39	屋久島が霧島国立公園に編入。霧島屋久国立公園となる	西部林道(永田-栗生)起工 町営永田診療所開設	新潟水俣病(新潟県阿賀野川流域) 林業基本法制定 木材輸入自由化進む				
1965	S40	宮之浦の森林軌道を廃止	国民宿舎「やくしま荘」営業開始				22,242	
1966	S41	岩川貞次氏(上屋久町観光係長)により縄文杉が発見される 屋久島国有林の伐採量最大値18万㎡(主な用途は、製紙用パルプ材) 土埋木の生産開始	口永良部島新岳噴火					
1967	S42	縄文杉の発見を南日本新聞が報道 小杉谷の伐採作業終了	西部林道完成により屋久島一周車道開通		屋久杉の知名度が高まる			
1968	S43		安房と栗生にチップ工場設置 西部林道県道認定 宮之浦大橋完成 屋久島電信電話局が完成	国民総生産が世界第2位に	保護と開発をめぐる葛藤			
			屋久島西部林道を県道に認定					

屋久島山岳部を中心とした歴史年表

資料4-2-1

年(西暦)	(和暦)	山岳部の歴史	屋久島の歴史	日本と世界の動き	大きな変化	調査等	屋久島町人口	入り込み数
1969	S44	屋久杉保護問題が盛んになり、林野庁が「屋久島国有林の自然保護に関する調査団」を派遣						
1970	S45	小杉谷製品事業所閉鎖、小杉谷小・中学校閉鎖、全員移転 林野庁は「屋久島の国有林における自然保護について」をまとめる 学術参考保護林拡張(花山、国割岳) 屋久島国有林第一次地域施業計画	安房新港北ふ頭起工 タンカン導入	日本万国博覧会(大阪)開催 総人口1億人突破	急激な人口減少がはじまる		17,376	
1971	S46	鹿児島県林務部により「ヤクシカ狩猟禁止(向う10年)」 荒川屋久杉観賞林(ヤクスギランド)がオープン	高塚小屋整備 石塚小屋整備 屋久島航路に折田汽船(株)フェリー屋久島就航	環境庁設置				
1972	S47		種子島・屋久島航路に鹿児島商船(株)フェリー第2屋久島丸就航 町営船「太陽丸」(52トン)口永良部～宮之浦間に就航 屋久島を守る会結成 口永良部島新岳噴火 皇太子、同妃殿下が屋久島来島視察	国連人間環境会議(ストックホルム会議) 世界遺産条約採択 自然環境保全法制定				
1973	S48	上屋久町議会「屋久杉原生林の保護に関する決議」						
1974	S49	ヤクスギランド、白谷雲水峡が自然休養林に指定		国有林野事業赤字計上 戦後初のマフス成長、高度成長経済大打撃				
1975	S50	国立公園の一部を原生自然環境保全地域に指定(1219ha) 土埋木の搬出開始 安房森林軌道(荒川～安房)を廃止	屋久島空港滑走路延長(1500m、YS-11就航) 屋久島離島開発総合センター完成	ワシントン条約・ラムサール条約発効 世界遺産条約発効			16,110	
1976	S51		県道上屋久屋久線主要地方道に昇格 屋久島空港-鹿児島空港 1日2便に					
1977	S52		屋久島森林組合設立(上屋久・屋久森林組合合併) 栗生周辺(海城含む)での石油備蓄基地建設計画					
1978	S53	屋久島原生林の伐採記録映画「屋久島からの報告」上映	屋久島農業協同組合設立(上屋久と屋久が合併)					
1979	S54		永田土面川土石流災害(台風16号、20軒流出・全壊、200軒以上親水) 安房川第二発電所竣工					
1980	S55	MAB(現ユネスコエコパーク)登録 安房森林軌道の石塚集落上部を廃止	屋久島空港の滑走路拡幅 安房橋開通 屋久島電工の業績不振による、税収減	第二次オイルショック			15,624	
1981	S56	瀬切川右岸国有林伐採反対運動	石油備蓄基地建設計画計画と反対運動 上屋久町自然休養村管理センター落成 屋久島エレジーの碑建立 ウィルソン博士顕彰の碑建立					
1982	S57	屋久島国有林第四次施業計画(樹齢1000年以上の屋久杉は禁伐等、伐採量縮減) 国有林において群状択伐による天然林施業導入(屋久杉・予備軍小杉禁伐、広葉樹皆伐S10haまで等)	県道上屋久永田屋久線主要地方道に昇格 第2太陽丸就航 屋久島空港-鹿児島空港 1日3便に 永田土面川土石流災害損害賠償請求訴訟			「土面川土石流災害被害者同盟」が損害賠償の訴え起こす		
1983	S58	国立公園区域の拡張(瀬切川、永田川流域)、保護林拡張(瀬切)	朝日新聞社、森林文化協会主催の「自然100選」に屋久島が選ばれる 環境庁作成の環境週間ポスター「7200歳です」効果で、縄文杉に登山客集中、屋久島の知名度上昇			原生自然環境保全地域の継続調査(1983年度～、10年ごとに実施)環境省実施 植生の垂直分布の動態把握(1983年度～、10年ごとに実施)環境省実施		
1984	S59	縄文杉根元保護対策?						
1985	S60	淀川小屋整備	宮之浦流水「全国名水100選」に認定 屋久島空港航空灯火(夜間照明)供用開始				15,072	
1986	S61	土埋木のヘリコプター集材が始まる 西部林道の拡幅計画が出される	屋久島森林開発(株)解散 屋久島公園安房線県道認定 屋久町屋久杉の里構想 屋久杉記念館の建設	バブル景気				
1987	S62	屋久島国有林第五次施業計画(伐採量縮減)		リゾート法制定 環境と開発に関する世界委員会				
1988	S63	縄文杉ロープウェイ建設計画と反対運動 花之江河・小花之江河への土砂流入、湿原の踏みつけによる荒廃	国民宿舎「やくしま荘」閉館			縄文杉ロープウェイ建設計画と反対運動		
1989	H1		種子・屋久航路に鹿児島商船(株)ジェットフォイル「トッピー」就航 屋久杉自然館オープン	国有林内保護林制度の見直し(森林生態系保護地域等創設)		島民純生産急増(1989年～2004年) 島民所得は、県民へ金の67%から84%に向上(物価は高水準を維持)	171,484	
1990	H2		上屋久町林地活用計画「超自然スーパーネイチャー屋久島」を策定 「屋久島環境文化村構想」が鹿児島県総合基本計画の14戦略プロジェクトに	環境庁がエコツーリズムを提唱		平成2年以降、農業従事者の高齢化や担い手不足により総農家数の減少始まる	13,860	187,469
1991	H3	ヤクスギランド休憩所森泉オープン 屋久島縄文杉登山のあり方検討会設置	屋久島環境文化村研究会発足 屋久島環境文化村マスタープラン研究委員会発足 第1回環境文化懇談会にて世界遺産登録の提案がされる(懇談会メンバー:下河辺淳座長、梅原猛、福井健一、上山春平・兼高かおる・C.W等ほか)	バブル崩壊(失われた20年開始)		利用者増、集中、施設の不足、マナー低下		221,765

保護と開発
をめぐる葛藤



屋久島山岳部を中心とした歴史年表

年(西暦)	(和暦)	山岳部の歴史	屋久島の歴史	日本と世界の動き	大きな変化	調査等	屋久島町人口	入り込み数
1992	H4	屋久島森林生態系保護地域(中部山岳部周辺、西部地域、南部地域、自然休養林)の設定 西部林道拡幅計画と反対運動 新高塚小屋整備	「屋久島環境文化村マスタープラン」策定、「環境キップ制度」の導入を提言 ジェットfoil「トッピー2」就航	国連環境開発会議(地球サミット) 種の保存法制定 日本が世界遺産条約を批准	ウミガメ産卵率過去最低との調査結果発表			241,623
1993	H5	屋久島と白神山地在世界自然遺産登録 森林環境整備を推進するための協力金制度の導入(ヤクスギランド) 屋久島国有林第一次施業管理計画(機能類型区分に基づいた、国有林経営)	財団法人「屋久島環境文化財団」設立 折田汽船(株)の新造船「フェリー屋久島2」が就航 両町が「屋久島憲章」制定	生物多様性条約発効 環境基本法制定	世界自然遺産登録を契機に観光客が急増 エコツアーやガイド業が増え始める			209,219
1994	H6	屋久島山岳部利用対策協議会発足 縄文杉への立入禁止など決定 屋久島西部林道改修、自然環境保全審議会自然公園部会小委員会が答申 白谷雲水峡トイレ整備	屋久島フォーラムで「屋久島エコミュージアム構想」発表 上屋久営林署と下屋久営林署を統合し、屋久島営林署と屋久島保全センターが発足 夜のウミガメ産卵時間の立入り禁止規制試行開始	生物多様性条約締結国会議(COP1) 気候変動枠組(地球温暖化防止)条約発効	屋久島町の人口増加へ ゴールデンウィーク中に、屋久島の入り込み1万人を記録する(うち、登山者3000人)	天然杉の現状把握(1994年度～、10年ごとに実施)林野庁実施		233,489
1995	H7	屋久島世界遺産地域連絡会議設置 荒川登山口トイレ整備 屋久島国有林第二次施業管理計画(機能類型区分に基づいた、国有林経営)	両町で環境基本条約を制定 「屋久島世界遺産地域管理計画」を策定 「屋久の森シンポジウム」開催 永田ウミガメ連絡協議会による有料のウミガメ観察会開催 ジェットfoil「トッピー3」就航	生物多様性国家戦略閣議決定 気候変動枠組条約COP1		レクリエーション利用や観光業の実態把握(1995年度～、10年ごとに実施)環境省実施	13,593	256,645
1996	H8	林野庁縄文杉デッキ完成 白谷雲水峡に森林環境整備推進協力金制度を導入	屋久島世界遺産センター、屋久島環境文化村センター、屋久島環境文化研修センターオープン 永田土面川土石流災害損害賠償請求訴訟、住民側の上告 電気自動車エコツアーはじまる	「西表エコツーリズム協議会」発足	屋久島土面川訴訟、最高裁が上告棄却国へ賠償請求認めず		13,650	252,838
1997	H9	IUCNによる管理状況調査 西部林道道路拡幅計画を白紙に戻す事に決定	町道白谷線、県道に昇格 町営船「フェリー太陽」(408t)就航	映画「もののけ姫」公開 国連環境開発特別総会 気候変動枠組条約COP3「京都議定書」に合意			13,556	263,734
1998	H10		屋久島世界自然遺産登録5周年記念シンポジウム開催(屋久島) 世界自然遺産会議開催(東京) 戦後最悪の不況、過去最大の景気対策 地球温暖化防止京都会議開催	国有林野事業の抜本的改革(公益的機能重視、累積債務処理等) 世界自然遺産会議開催(東京) 戦後最悪の不況、過去最大の景気対策 地球温暖化防止京都会議開催	大株歩道の悪化に最大の懸念		13,820	279,735
1999	H11		屋久島観光協会発足(上屋久と屋久の協会が合併) 西部林道拡幅計画凍結	失業率過去最悪		ヤクタネゴヨウの分布・生育状況(1999年度～、10年ごとに実施)林野庁実施	13,865	260,161
2000	H12	町道荒川線マイカー規制スタート(GWの3日間)	屋久島エコツーリズムガイド連絡協議会設立 世界自然遺産会議開催(鹿児島市、屋久島) 皇太子、同妃殿下来島	地方分権一括法施行			13,875	263,077
2001	H13		「屋久島環境文化村構想の推進」を主要プロジェクトに位置付け	環境庁が環境省に 森林・林業基本法改正(木材生産→森林多面的機能発揮) 不況深刻化、株価急落、失業率5%台			13,869	286,277
2002	H14	国立公園区域の拡張(白谷、永田浜、栗生・中間海岸、七五岳、西部特保に等) 海中公園地区新指定 屋久島世界遺産地域連絡会議改編 大株歩道入口トイレ整備 マナーガイドの発行、マナービデオの放映	屋久島観光協会ガイド部会設置 エコツーリズム推進の取り組みスタートための指針及び提案作成	NHK朝ドラ「まんてん」放送 国連「国際エコツーリズム年」 自然公園法改正(利用調整地区制度創設等) 自然再生推進法制定 倒産相次ぐ、失業率5.5%で最悪水準	登山ガイド従		13,911	289,535
2003	H15		エコツーリズム推進の取り組みスタート(利用調整検討、ガイド認定制度検討、里のエコツーリズム導入) 屋久島世界遺産登録10周年記念シンポジウム(「環境キップ制度に関するディスカッション」)	世界自然遺産候補地検討会で知床、小笠原、琉球諸島が候補に エコツーリズム推進会議開催(～2004年)			13,911	314,757
2004	H16		屋久島総合自然公園(野生植物園)開園 屋久島エコツーリズム推進協議会設立	外来生物法制定			13,900	293,832
2005	H17	し尿の搬出試験 屋久島ガイド登録制度施行	屋久島永田浜ラムサール条約湿地登録(前浜、いなか浜、四ツ瀬浜) 高速船「ロケット」就航	三位一体改革で国立公園内施設整備の役割分担の変化 知床が世界自然遺産登録 第2回世界自然遺産会議開催(青森市、白神山)	縄文杉の樹皮が、はぐり被害に遭う 入り込み客数が急増		13,756	316,884

屋久島山岳部を中心とした歴史年表

資料4-2-1

年(西暦)	(和暦)	山岳部の歴史	屋久島の歴史	日本と世界の動き	大きな変化	調査等	屋久島町人口	入り込み数
2006	H18	大株歩道入口トイレ改修 屋久島ガイド登録制度開始					13,820	333,224
2007	H19	小杉谷バイオトイレ設置 (阪急交通公社提供)	上屋久町と屋久町が合併し、屋久島町誕生 国立公園区域の拡張 (口之永良部島) 屋久島町猿のえ付け等禁止条例	エコツーリズム推進法制定	入り込み客数が、過去最高の40万人台を突破		13,508	406,387
2008	H20	屋久島山岳部保全募金スタート、屋久島町山岳部保全基金条例制定 (「屋久島山岳部保全募金」を導入) 山岳トイレし尿搬出スタート、ヤクスギランド内携帯トイレブース 屋久島山岳部車両運行対策協議会設置 山岳部のし尿搬出開始	屋久杉自然館前トイレ・駐車場整備	リーマンショック 生物多様性基本法制定	入り込み客数の減少始る	登山ガイド従事者急増	13,530	385,987
2009	H21	町道荒川線マイカー規制期間延長 (GW&夏の71日間) 縄文杉登山快適登山日カレンダーの配布 携帯トイレの普及啓発 荒川登山道土砂崩落(6月～通行開始) 世界遺産地域科学委員会設置 荒川登山口休憩所・トイレ整備、小杉谷バイオトイレ設置 (小林製薬提供) 大王杉～縄文杉植生保護デッキ設置	屋久島町エコツーリズム推進協議会設置 「永田浜ウミガメ観察ルール2009」策定 安房森林鉄道が区間限定で経済産業省の「近代化産業遺産」に認定	皆既日食 映画「余命一ヶ月の花嫁」のロケ地	今世紀最大の「皆既日食」が屋久島でも見られる	入り込み客数の減少	13,677	327,861
2010	H22	町道荒川線マイカー全期間規制 (3-11月) 世界遺産地域科学委員会ヤクシカWG設置 携帯トイレ導入スタート、宮之浦岳ルート携帯トイレブース設置 大王杉～縄文杉植生保護デッキ設置	「屋久島エコツーリズム全体構想(素案)」作成	生物多様性条約COP10 「愛知目標」が採択			13,586	333,219
2011	H23	縄文杉利用調整を含む「屋久島自然観光資源の利用及び保全に関する条例案」を町議会へ上程・否決 新高塚小屋TSSトイレ、淀川登山口トイレ整備	「屋久島世界遺産地域モニタリング計画」策定	国連「生物多様性の10年」スタート (～2020年) 小笠原が世界自然遺産登録	利用調整に関する条例が議会で否決		13,553	319,736
2012	H24	霧島屋久国立公園から屋久島国立公園へ名称変更	改訂版「屋久島世界遺産地域管理計画」を策定 屋久島エコツーリズム推進協議会の再立ち上げ	国有林野事業の一般会計化			13,513	305,201
2013	H25	縄文杉林野庁北デッキ撤去 大王杉携帯トイレブース設置 高塚小屋リニューアル	屋久島世界自然遺産登録20周年記念シンポジウム開催(東)		入り込み客数が、30万人を下回る		13,503	299,744
2014	H26	瀬切川ヤクタネゴヨウ植物群落保護林の設定						
2015	H27	世界自然遺産屋久島山岳部環境保全協力金条例制定 縄文杉環境省デッキ1設置	口之永良部島新岳噴火 (5/29全島避難12/25帰島)	地域自然資産法施行 国有林内保護林制度の見直し				
2016	H28	ユネスコエコパーク拡張登録 縄文杉林野庁南デッキ撤去・環境省デッキ2設置 土埋木のヘリコプター搬出停止	屋久島町観光基本計画制定 屋久島公認ガイド利用推進条例施行					
2017	H29	世界自然遺産屋久島山岳部環境保全協力金スタート						